

ビブリオバトル in 杏和

無事閉幕！

杏和高校では、学校祭でビブリオバトルに取り組み始めて4年目となりました。今年は、本校初の予選－決勝方式で実戦しました。会場をいつもの図書室と語学実習室と2つ構え、予選をそれぞれ別会場で闘い、決勝にてあらためて技を競い合ったのでした。バトルは、1年生から3名、3年生から3名の計6名でした。

1222 小嶋明音さん、 1431 野田彩香さん、 1502 今川夏生さん
3130 田口 葵さん、 3512 張 晃寿さん、 3223 小崎 舞さん

内容は、恋愛指南書、文学作品、法学入門書、そして、介護福祉の本など。6名がそれぞれにバラエティ豊かに論戦を交えてもらい、どれも聴応え見応えともに十分でした。以下、決勝に進んだ4名とその作品を紹介します。予選から決勝に進出した面々は、その全員が、予選とはまるで別人(?)と思えるほど、質・量ともにバージョンアップした決勝らしいプレゼンでした。わずか予選から決勝まで休憩 10 分程度の時間に修正できる能力に感心するばかりです。このような激闘の末、会場の全員による投票の結果、3年小崎さんが校内バトルで3回連続のチャンプに輝きました。これはスゴイことです。

次は、冬の陣として、2学期末の保護者会あたりで実施する予定です。

知的書評合戦とは、上手に翻訳した言葉だと思えます。知性のぶつかり合いのいい緊張感をみなさんにも、味わってもらいたいです。観戦者として、もちろんバトルとして参加いただきますことお待ちしております。

レポートの最後ですが、どうしてもみなさんにもお伝えしたいことがあります。本校のビブリオバトルは、すべて図書委員のみなさんで運営しています。とくに司会の人たちは、司会すると同時に、プレゼン内容をメモ、なおかつ、討論時には、率先してバトルに質問をぶつけるといふ多くの役割をこなしてもらいました。活躍は司会者ばかりでなく、どの図書委員もとてもいい仕事してくれました。図書委員のみなさん無くして本校のビブリオバトルは成り立ちません。いろいろ力をくれたこと、あらためてありがとう。



第1バトル小崎 舞
『飛び跳ねる思考』

自閉症をもつ人たちの行動を、私たちは十分に理解できていません。行動のそれぞれに意味が込められていて、まず知識を持つことが肝要と論評。未知の感性を教えてくださいました。



第2バトル田口 葵
『itと呼ばれた子 完結編さよなら』
幼児虐待という単語を世の中に投げかけた衝撃作の完結編。完結編としての特色を丁寧に語り、全編に渡る虐待の悲惨さを述べ、「絶対にダメなこと」と強く主張。



第3バトル張 晃寿
『キヨミズ准教授の 法学入門』
法律とは、難しく堅い話と早計にくくることは、ダメとバトル。本書によると、法律は、文字で直接的に表されているものばかりでなく、その考え方は、身近で、日常にありふれているようです。



第4バトル今川夏生
『関ヶ原 上巻』
戦記物が好きなバトル。特に、石田三成は敬愛する武将であるよう。その三成の描かれ方が、本書では秀逸であると。人間味あふれる描写が素晴らしいと力説してくれました。